

「私はがんになった後に、ムスメを授かりました。だから、この子を残して、死ななければなりません。がんになってもならなくても、死ぬ順番は、私が先に決まっています。だとすると、心残りがないように死ななければなりません」

元気に生きているとき、
気付きにくい、大切なこと。

能楽殿に立った千恵の歌と語りに、
みんな、心を揺さぶられた。

舞台袖で見つめていたばかりも、涙をこらえるので精一杯だった。

あのコンサートから2年。

『いのちのうた』。もう一回、やりましょうよ」
三宅さんが声をかけてくれた。

「のぞむところよ」と内田先生も緊急参戦。

「またいつか、この場所で」
互いに抱き合い、心を込めて別れた出演者とスタッフが、
再び能楽殿に集うことになった。

コンサート後の千恵の言葉を思い出す。

「やりつくしたね。しばらくの間、もういっばい」
その笑顔は達成感で満たされていた。

2年も充電したから、そろそろよかやろ？
また、みんなで歌おうや。

なつかしく、恋しい。
あの顔ぶれが戻ってくる。

千恵が「つふふ」と笑っている。

*ブログ「早寝早起き玄米生活」より抜粋



～安武千恵さん追悼コンサート～

いのちのうた 第2章

親が子に遺せるもの

◎と き＝2009年10月31日(土) 13:00 開演

◎ところ＝住吉神社能楽殿

「いのちのうた」は、市民有志でつくる実行委員会が主催する手作りの音楽イベントです。「日常では気づく機会が少なくなった命の尊さや、経済発展のために社会が失ってしまった大切なもの、私たちが生きていくうえで本当に必要なものは何かを、音楽を通じて見つめなおそう」と、2006年から始まり、今年で3回目を迎えます。前回、前々回のコンサートの企画運営に携わり、自らも出演した福岡市の声楽家、安武千恵さんが昨年夏、がんのため33歳で亡くなりました。今回は、千恵さんの追悼コンサートとして、彼女の友人たちが中心となって企画しました。

25歳で乳がんを発病した千恵さんは、8年間、化学療法や独自に学んだ食事療法で治療にあたり、闘病生活を送りました。がんを患ったことがきっかけで、現代の食や私たち自身の消費行動に疑問を持つようになり、音楽活動や料理講座などを通じて、食卓を変えることで社会を変えていく運動に取り組みました。食、環境、農、子育て、医療の現状と課題などについて自身の考えをつづったブログ「早寝早起き玄米生活」は千恵さん亡き後ご主人が引き継ぎ、今もなお、がん患者をはじめ、多くの人たちに読まれています。このうち、生前の千恵さんが5歳の長女に、みそ汁の作り方を教えた体験と先に死に逝く親としての思いをつづった「親が子に遺せるもの」は新聞記者らの目にとまり、その内容が新聞紙面や広報誌などに大きく掲載され、全国の人たちの共感を集めました。

「いのちのうた 第2章」では、全国各地での講演活動で、千恵さんの生き方、子育て、病との向き合い方などを紹介続けている助産師の内田美智子さんをお招きし、スライドショーを使った内田さんの語りと、趣旨に賛同したミュージシャンたちの奏でる音楽で、いま、私たちがここに生きていることの奇跡をかみしめながら、千恵さんが伝えようとした思いをしっかりと紡ぐことができるような催しにしたいと思います。

出演者プロフィール



三宅伸治
(みやけ・しんじ)

1985年 MOJO CLUB 結成。89年東芝EMIよりメジャーデビューし、同年、覆面バンド・タイマーズに参加。木村充揮、友部正人、ウルフルズ、北川悠仁、桜井和寿ら様々なアーティストとの交流を深めながらライブを行う。忌野清志郎が率いた NICE MIDDLE with NEW BLUEDAY HORNS ではバンマスとして活動。著書に詩集「月のメロディー」(西日本新聞社)。



©野中元

NUU
(ぬう)

詩を書き、曲を産み、唄う人。保育園やオーガニックレストランなど、うたう場所を問わず、生活の中に歌と笑顔を届ける。NUUとは本名のイニシャル“N”と、人や物すべての“YOU”を“U”に置き換え、私とあなたがいって、初めて唄えるNUUになれるという意味。最新作は草野心平の詩に曲をつけたアルバム『つんつんつるんぶつるんぶつるん』。



海童と夕焼け楽団
(かいどうとゆうやけがくだん)

琉球三線、ギター、ビオラで構成する「南国下町的」音楽集団。福岡を中心にライブ活動を展開中。2003年ラジオ「サンデーカフェ」テーマ曲担当。04年CD「南国食堂」リリース、06年瀬戸内うちなーツァー、07年夕焼け楽団結成。CD「SMILE」リリース。メンバーは海童(Vo、三線、ギター)、タザーン(ギター、Vo)、ビオレ由宇子(ビオラ)。



内田美智子
(うちだ・みちこ)

助産師。1957年大分県竹田市生まれ。88年から内田産婦人科医院に勤務。夫は同院長。思春期保健相談士として子どもたちの悩みなどを聞く。九州思春期研究会事務局長、福岡県子育てアドバイザー、同県社会教育委員。「生」「性」「食」をテーマに講演活動を展開。著書に『ここ一食卓から始まる生教育ー』(西日本新聞社)、『いのちをいただく』(同)。



いのちのうた

お問い合わせ先 「いのちのうた」実行委員会事務局 TEL 090-5020-0404 E-mail : ropponmatsu@mac.com